

保存版

先生

みらい科シラバス

予測不能の時代に、しなやかにたくましく
豊かな人生をデザインできる生徒を育むために

麴町学園女子中学校高等学校
みらい科委員会

目標：全生徒が、社会で求められるコンピテンシーとセレンディピティの資質を体得する。

コンピテンシー：今後の社会において求められる能力。みらい科では、「人間関係形成・社会形成能力(つながる力)」「課題対応能力(しなやかさ)」「自己理解・自己管理能力(自分を信じる力)」「キャリアプランニング力(出会う力)」を指します。

セレンディピティ：変動性・不確実性・複雑性・曖昧性が増していくと考えられる今後の社会(VUCA社会)において必要とされる姿勢、ものの捉え方。自分に限界を定めず、物怖じせずにさまざまなことに関心を持ちチャレンジし、継続性を持って取り組み、失敗してもあきらめずに跳ね返していく力(レジリエンス・GRIT)を体得することで、さまざまなチャンスをつかみ取る機会を多く有することができる、その資質のこと。

「計画的偶発性」(クランボルツ)

「チャンスは、心の準備のできている人のところにやってくる」(パスツール)

4

授業を進めるにあたって 教師が気をつけるべきこと

- ・教師は、「teach」ではなく「facilitate」することを強く意識して、授業に当たってください。
- ・授業の主導権は教師にあります。生徒が主体的に活動するように支援することを守ってください。教師は、オーケストラに例えるならば、自ら楽器を演奏する演奏者になってはいけません。終始一貫して「指揮者」でいることです。また、生徒が自主的に活動していることに安心して、何もしなくてもよいというわけでもありません。マラソンで例えるならば、「伴走者」として、教師も活動の渦中に入ってください。
- ・教師は、必ず始業時に本時に行う活動の説明と達成したいゴールを述べ、生徒に活動の方向性をしっかり意識させてから活動をスタートさせてください。また、終業時にも、授業を通じて何を学び、どのくらい成長したのかを意識させてください。その際、必ずルーブリック表を用いて説明をしてください。これを怠ると、その生徒がその授業でどんな成長をどれくらいできたのか生徒も教師も認識が甘くなり、教育効果が下がるので注意してください。
- ・授業を進める際は、教師自身がその時間のゴール地点を強く意識すること。教師がブレたら生徒も動揺してしまい、その授業は失敗となります。
- ・ワークをさせている間は、教師は基本的に教室内を動き続けます。机間巡視をし、生徒の活動を隅々まで観察し、生徒の活動がゴール地点にきちんと向かうように、ヒントを与えながら軌道修正してください。
- ・ヒントを述べる際、教師が特定の生徒の意見を拾うのは全く問題ありません。その意見を肯定することはもちろん、そのミスが多くの生徒が陥りがちなミスであれば、否定することもOKです。
- ・生徒の考えが、あらかじめ定めたゴール地点に向かうように、ヒントを与えながら「仕向けて」授業することはOKです。絶対にしてはいけないのは生徒の意見を強く否定することです。ゴールに向かう方向性が大きく転換しそうな時に軌道修正することは必要ですが、強力なコントロールは絶対にしないでください。

5